

次世代俳優特集

ブレイク必至の俳優たち



監督：菅田将暉 主演：仲野太賀

『クローバー』 (Clover)

監督：菅田将暉/47:00/日本/ドラマ/2019

サラリーマンとして日々を送るヨリモ（仲野太賀）が、上司や友人に貰ったプレゼントをきっかけに、身の回りのものを大事にすることの大切さを知る。一つ一つを愛し続けることで、自分の愛したものや人で日々が彩っていく、という温かいストーリー。



アカデミー賞受賞作『ムーンライト』の助演、ジャレル・ジェローム主演
Cinematic Tokyo部門 優秀賞 (東京都知事賞)

『ロブ』 (Robu)

監督：ハッサン海/19:00/日本/サイエンスフィクション/2018

父親が遺した漫画シリーズの第二巻を探しに東京まで来た17歳のアメリカ人少年ロブ。彼は東京中を探し回らうちに実は漫画の中の世界が現実で、自分が主人公であることに気づいていく。



『ウォーキング・デッド』のグレン・リー役、スティーヴン・ユアン主演
ベストアクターアワード (インターナショナル部門) 受賞

『頑固者』 (Naysayer)

監督：デビッド・ヘルマン/8:32/アメリカ/ドラマ/2018

まだ赤ん坊の息子から引き離された若い父親。息子の母親である元恋人が彼をSNSからブロックしていたことに気付いた時、父親は息子を連れ去ることにした。

輝く女性映画人特集

女性の視点が光る作品群

次世代映画界のミューズ 芋生 悠 主演
ベストアクトレスアワード (ジャパン部門) 受賞作品
女性監督が描く女性のフェティズム！

Netflix「13の理由」出演女優マリア・ディッチア主演
ベストアクトレスアワード (インターナショナル部門) 受賞作品
母として、妻として、女としての佇まいや感情をリアルに表現



『ヒゲとレインコート』 (Beard and Raincoat)

監督：八幡貴美/11:53/日本/ドラマ/2018

どこにでもいる普通の子高生カナコはある日偶然にも彼氏の兄のヒゲに触れ、そのジヨリジヨリとした触感が忘れられなくなってしまふ。しかしそのヒゲの兄もまた別のフェチを持っていた。



『向かいの窓』 (The Neighbors' Window)

監督：マーシャル・カリ-/20:39/アメリカ/ドラマ/2019

幼い我が子と夫の面倒に愛想が尽きたアリーは近所に引っ越してきた20代のカップルの部屋が自宅の窓から見えることに気付く。そこからカップルの自由なライフスタイルを「裏窓」風に覗き見る日常が始まった。

世界のアニメーター特集

本年度アカデミー賞ノミネート作品、カンヌ映画祭ノミネート作品、元ピクサーのクリエイターによる作品など世界基準に日本作品も挑戦！



SSFF & ASIA 2019 ジャパン部門優秀賞(東京都知事賞) 受賞作品
【第92回アカデミー賞短編部門ノミネート候補】

『マイリトルゴート』 (My Little Goat)

監督：見里朝希/10:13/日本/アニメーション/2018

オオカミに食べられてしまった子ヤギ達を胃袋から助け出すお母さんヤギ。しかし、長男のトルクだけが見つからない！

ヒューマン作品特集

グランプリ作品が描く現代の人間模様は必見！
「あなただったらどうする？」人生に連続する「選択」を描く物語群



SSFF & ASIA 2019 ジョージ・ルーカス アワード (グランプリ)
アジア インターナショナル部門優秀賞 (東京都知事賞) 受賞作品
【第92回アカデミー賞短編部門ノミネート候補】

『見下ろすとそこに』 (Down There)

監督：ツェンファン・ヤン/10:15/中国、フランス/ドラマ/2018

階下からの騒音が穏やかな夜を一変させる。冷酷で無関心な住民もいれば、迷惑そうな住民もいる。人も反応は実に様々だ。



熱き女優魂を持つ柳ゆり菜 出演 第4回ブックショートアワード受賞作品原作

『名前って、ふたつ以上の鐘の音』
(A Name: A Bell That Keeps Ringing)

監督：たかひろや/15:47/日本/ドラマ/2019

ジュリアンはフランス人の父から「 Condom 」の姓を、日本人の母から「田中」の姓を受け継いだ日仏ハーフの少年。大学生となった彼は、自分の名前が持ち合わせてしまった意味合いに葛藤していた。



日本プレミア！

ビル・スカルスガルド (『IT/イット THE END “それ”が見えたら、終わり。』) 主演

『石が現れた』 (A Stone Appears)

監督：Constantine Venetopoulos/11:35/アメリカ/ファンタジー/2016

同じルーティーンを無限に繰り返す男女の前にある日、石が現れる。



ディエゴ・カタニーニ(『ナルコス』)、ナッシュ・エジャートン (『ザギフト』)出演
平成30年度Tokyo Cine-magic特別製作作品

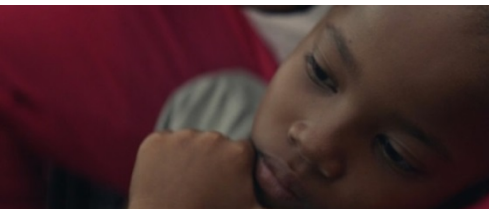
『ホセのトーキョー夢物語』 (Jose's Tour de Tokyo)

監督：田中希美絵/日本 / 15:09 / コメディ / 2019

SNSインフルエンサー、アレックスの番組アシスタントの仕事で初来日したメキシコ人の青年ホセ。アレックスの無茶な要求に奮闘しながら東京の街を駆け巡ったホセは、夢のような体験をすることに。

社会派作品特集

ショートフィルムで世界の「今」を考える



SSFF & ASIA 2019 ノンフィクション部門 supported by ヤフー株式会社
優秀賞受賞作品【第92回アカデミー賞短編部門ノミネート候補】

『ドゥルセ』 (Dulce)

監督：アンジェロ・ファッチーニ & ギレ・イサ/10:30/アメリカ/ノンフィクション/2018

コロンビアの海岸沿いの村で自分の娘に泳ぎを教える母。泳ぐことを覚えれば、村の娘たちとマングローブの沼で貝を収穫することもできる。

BRANDED SHORTS

今年のブランデッドショーツ オブ ザ イヤー 2 作品に加え、世界の最新ブランディングムービーを特集



カンヌライオンズ 2019 フィルム部門 グランプリ/フィルムクラフト部門 グランプリ

『The Truth is Worth It : Resolve (原題) 』

監督 : Martin + Lindsay/2:00/アメリカ/2019

広告主: The New York Times

広告会社: Droga5 New York

制作会社: Furlined



クリオ賞 2019 フィルムテクニク (オリジナルミュージック) シルバー

『The Most Vicious Cycle (原題) 』

監督: Ben Smith/9:39/アメリカ/2018

広告主: March for Our Lives

広告会社: McCann New York

制作会社: Mill+

BRANDED SHORTS 2019 秋の特別セミナー「BRANDED SHORTS 海外と日本 広告最前線」

日本で唯一の国際広告祭として2016年に始まったBRANDED SHORTS。年々海外からの応募も増え、国内外からの注目も集めています。秋の特別セミナーでは、国内外でのクリエイティブ事例が豊富で、カンヌライオンズや数々の国際広告祭で審査員も務めた広告業界のプロフェッショナル3名をゲストに招き、海外と進める広告制作の魅力や秘訣をたっぷりと語って頂きます。

ゲスト: 鈴木智也 (STORIES INTERNATIONAL INC. CEO)

長谷部守彦 (株式会社博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター)

ピーター・グラッセ (Mr+Positive創業者)

日時: 10月17日 (木) 19:00~20:40

会場: 東京都写真美術館ホール

定員: 190名

チケット: 無料

申込方法: 9月19日(木)14時から、公式サイトにて先着順で受け付けます。

【トークセミナー】「濱口竜介監督が描き出す「生きた」映画の住人」

カンヌ国際映画祭ノミネート『寝ても覚めても』の監督が、フィクションとリアリティの向き合い方を紐解く!



日時: 10月19日 (土) 15:00~16:40

会場: 東京都写真美術館ホール

定員: 190名

チケット: 無料

申込方法: 9月19日(木)14時から、公式サイトにて先着順で受け付けます。

濱口竜介監督 プロフィール

1978年、神奈川県生まれ。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科修了制作『PASSION』が国内外の映画祭に出品され高い評価を得る。その後も、震災後の東北を写したドキュメンタリー映画『なみのおと』(2011)や『なみのこえ』『うたうひと』(2013) (共同監督: 酒井耕)、神戸を舞台にした5時間を超える長編ドラマ『ハッピーアワー』(2015)など、地域やジャンルをまたいだ精力的な制作活動を続けている。2018年、カンヌ国際映画祭コンペティション部門にも出品された最新作『寝ても覚めても』は世界各国、30以上の地域で劇場公開された。2019年からはニューヨーク、パリ、ソウル、トロント等、世界中の主要都市で特集上映も開催されている。

<「Cinematic Tokyo部門」作品募集のお知らせ>

東京都は、SSFF & ASIAと連携し、国内外のクリエイターによって東京の魅力を発信するプロジェクト※として、「東京」をテーマとしたコンペティション「Cinematic Tokyo部門」を実施しています。

※詳細については、特設サイト (https://shortshorts.org/tokyo_project/) をご覧ください。



今年度も、多彩な「東京」の魅力を国内外に発信するショートフィルムを募集しています。撮影地が東京である作品だけでなく、「東京」を感じさせる題材や、思い出の「東京」、イメージネーションされた「東京」などの作品であれば、応募可能です。なお、募集期限は令和2年1月31日(金)までです。

応募に関する詳細は、下記のホームページをご参照ください。

<https://www.shortshorts.org/ja/creators/>

